

目 次

●人間の科学（乳幼児期－不思議な世界－）	1
●人間の科学（神経科学入門：脳の中の心を探る）	2
●人間の科学（対人世界の心理学）	3
●人間の科学（科学史）	4
●人間の科学（性と生）	5
●人間の科学（映画から見る精神医学：シネサイキアトリーへの招待）	6
●人間の科学（性と生）	7
●人間の科学（身体関係論入門）	8
●人間の科学（ピアジェとフロイト）	9
●人間の科学（心理学概論）	10
●人間の科学（脳の機能と学習力）	11
●人間の科学（カリキュラムを学ぶ）	12
●人間の科学（対人関係と適応）	13
●人間の科学（人の老化と死_高齢期社会を生きる）	14
●人間の科学（諸外国の教育と子ども）	15
●人間の科学（青年の心理－大学生編）	16

2010年度 前期	曜日・校時 月3 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001001 授業科目(英語名)	●人間の科学(乳幼児期—不思議な世界—) Human Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等) 1年生(全学部&教育・幼教コース必)	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 井口 均 / hitoshi@konishi@ / 225,224 / 2388,2328 / 休憩時間随時(在室の場合)			
担当教員(オムニバス科目等)	井口 均, 小西 祐馬		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 乳幼児期の心的発達特性について基本的理解を深め、より親近感をもった存在として感じられるようになる、また、乳幼児とその家族の現状を、社会経済状況や教育・福祉の諸制度との関係から検討し、その上で幼稚園や保育所の概要・役割・意義を理解する。 授業方法(学習指導法): 基本は講義形式、他に視聴覚教材や配布資料の活用。学生からの質問についての意見交換など実施。 到達目標: (1) 乳幼児期の心的発達特性について、基本用語を用いて簡単な説明ができる。 (2) 現代の乳幼児とその家族の現状について具体的に説明できる。乳幼児期における教育・福祉制度の基礎(幼稚園・保育所の概要など)について説明できる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 1. 乳幼児期の心的発達特性 第1回 はじめに&赤ちゃんの他者とのかかわり 第2回 乳幼児(人)の学びにとって重要なこと 第3回 生活用具・道具の使用のもつ意味 第4回 遊びの成立とモノ・ヒトの関係性 第5回 思いやりの心 第6回 科学的概念の育ち 第7回 読み書きができるまで 第8回 想像・イメージ世界の面白さ 第9回 家族の現在 第10回 結婚と出産の困難——少子化について 第11回 子育ての困難と虐待(1) 第12回 子育ての困難と虐待(2) 第13回 家族資源格差と子どもの不平等 第14回 幼稚園と保育所の概要 第15回 幼児教育・保育の課題 第16回 諸外国と日本の比較			
キーワード	共鳴・共同、遊び、自我、象徴機能/幼稚園・保育所、子どもの貧困		
教科書・教材・参考書	参考書:「育ち合う乳幼児心理学」有斐閣, 2000/レジュメ・資料を配布		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的取組み状況(15%)、受講態度(15%)、質問票(20%)、レポート(50%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ 学習・教育目標	教育学部・幼教コースの専門基礎 乳幼児教育・保育への関心とそれにかかわる人たちの役割認識を高める。		
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 火1 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001002 授業科目(英語名)	●人間の科学(神経科学入門:脳の中の心を探る) Human Sciences		
対象年次 1年,2年,3年,4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 205	
対象学生(クラス等) 1,2年次	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 森 望 / morinosm@net.nagasaki-u.ac.jp / 医学部基礎棟 3F 343号室 / 819-7019(医学部内線 7019) / 火曜日 16:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	森 望,小澤 寛樹,永田 泉		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>ねらい: 授業のねらい: 壮大な宇宙史あるいはヒトの進化史の中で、ヒトの「脳」は究極の進化産物である。生体としての自己を維持する管制塔であるとともに、恋人や家族やまた他人を認知し、優しくもなり凶暴にもなる「心」を宿す特殊な生物器官である。「物質」の集合体としての「脳」は如何に「心」をはぐくむのか? 「心」はどのように発達してどう進化するのか? 「脳」のどこに「心」は住むのだろうか? いわゆる記憶学習のような高次脳機能に加えて、情動や感性を含めた「精神」の発達がヒトを人たらしめる。「精神」や「こころ」は、優しくもあり、崇高でもあり、そして時に病むこともあり、老いとともに崩れることもある。本講義では、現代神経生物学の基礎を学習しつつ、物質から心がどのように生まれるのかを多面的にとらえ、「脳」と「こころ」の発達と進化について理解することをめざす。</p> <p>授業方法(学習指導法): 第一解剖の森を中心に、精神科の小澤教授、脳外科の永田教授を含めて講義形式で進める。適時レポートを課す。</p> <p>到達目標: 現代神経科学の基礎を理解しつつ「こころ」の実態について考える</p>			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週の授業内容を含む)			
<p>授業内容(概要)</p> <p>物質から「こころ」の派生を、進化論、ゲノム科学、脳形態学、神経生物学、霊長類学、心理学、精神医学、脳外科学等の成果から多角的に考察し、「こころ」の成立とそのメカニズム、成熟、病態、終焉、そして進化を総合的に理解する。大まかな内容は下記のとおり。</p> <p>第1回 (4/13) 現代脳科学と心脳問題</p> <p>第2回 (4/20) 物質進化と生命進化: 生命を形作る物質基盤</p> <p>第3回 (4/27) 遺伝子情報とヒトゲノム: 脳を操る遺伝子</p> <p>第4回 (5/11) 脳解剖: 脳地図と神経回路/シナプス</p> <p>第5回 (5/18) 感覚と認知(感覚器/一次感覚野・連合野)</p> <p>第6回 (5/25) 知性と情動(海馬・扁桃体/大脳辺縁系)</p> <p>第7回 (6/1) 好感と信頼(オキシトシン/視床下部)</p> <p>第8回 (6/8) 意識と意欲(前頭葉/大脳新皮質)</p> <p>第9回 (6/15) 言語と通信(ミラーニューロン)</p> <p>第10回 (6/22) 脳のゆらぎと精神疾患(1)</p> <p>第11回 (6/29) 脳のゆらぎと精神疾患(2)</p> <p>第12回 (7/6) 脳死</p> <p>第13回 (7/13) 脳と心の発達と老化</p> <p>第14回 (7/20) 脳科学からみる心の理論</p> <p>第15回 (7/27) 脳と心の進化/まとめ</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	養老孟司: 唯脳論(ちくま学芸文庫) 時実利彦: 人間であること(岩波新書)(1970) 茂木健一郎: こころを生み出す脳のシステム: 「私」というミステリー(NHKブックス)(2001)		
成績評価の方法・基準等	授業への参加状況(40%)とレポート(60%)の結果を総合的に評価する		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度前期	曜日・校時 火2 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001018 授業科目(英語名)	●人間の科学(対人世界の心理学) Human Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 4 2 9	
対象学生(クラス等)	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 山地 弘起 / hyamaji@nagasaki-u.ac.jp / / / 必要があればメールで調整します			
担当教員(オムニバス科目等)	山地 弘起		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
ねらい: 皆さんは、例外なく、他の人間たちのなかで生まれ、育ち、今に至っている筈です。周りを見渡せば、親密な関係(家族など)もあれば、生活の一部での関係(クラスメイトなど)やごくわずかな一方的な関係(テレビを通してなど)もあるでしょう。上下関係や年齢に応じた立場や役割に気づくこともあるでしょう。さらには、故人や先祖とのつながりを感じることもあるかもしれません。好き嫌いや相性といったもので、付き合い方を変えていることもあるかもしれません。我々は、皆、そうした様々な質に彩られた関係の網目のなかで日々を過ごしています。と同時に、各自の認知機能や性格傾向などにおいて、その多くの部分は、これまでの対人関係の所産といえます。発達過程における対人関係の重要性を、強調しすぎることはできません。今後、さまざまな場で相互にケアし合える関係を構築していくことは、次世代への重要な責任の一つといえるでしょう。そこで、本科目では、①自分自身の対人世界のありようを意識化する、②自分の成り立ちのプロセスを吟味する、③互いの成長を支え合う関係構築の方法を模索する、の3つのねらいを設定します。			
授業方法(学習指導法): (参加人数と教室によって変更あり) 関連した代表的な考え方を紹介しながら、体験学習を軸に進めます。予習/復習課題のほか、レポートと、関心をもった内容についてのグループ・プレゼンテーションを求めます。期末試験は実施しません。			
到達目標: (参加人数と教室によって変更あり) ・自分の周囲の社会的ネットワークを記述することができる。 ・ソーシャルサポートの鍵概念について、説明することができる。 ・自分の関係パターンを記述することができる。 ・社会情動的発達での鍵概念について、説明することができる。 ・自分のテーマとなっている関係課題を記述することができる。 ・関係臨床での鍵概念について、説明することができる。 ・関心をもった内容について、グループ・プレゼンテーションを適切に準備できる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週の授業内容を含む) (参加人数と教室によって変更あり) 第1回授業において、扱う内容や学習方法、評価の仕方等を説明し、参加者との間で必要な調整を行う予定です。第2回から第4回までは、対人世界を記述する観点を学習し、自分の周囲の社会的ネットワークはどういうものか、なかでも、必要なときに援助を期待できるソーシャルサポートのネットワークはどうなっているか、を検討します。続く第5回から第7回までは、何がいまの自分を築いたのかに焦点を当て、発達過程を振り返りながら、とくに社会情動的発達の代表的な考え方を学習します。そして第8回から第10回までは、各々の潜在力をより発揮できるように、互いに支え合う関係とはどういうものか、その方向に発達を進めるための要件は何か、といった点について、関係臨床の観点から展望を試みます。第11回に以上のまとめを行った後、第12回から第15回までは、参加者によるグループ・プレゼンテーションを行います。 第1回 導入 (プレゼンテーション課題の説明) 第2回 社会的ネットワークの査定 第3回 ソーシャルサポートⅠ 第4回 ソーシャルサポートⅡ 第5回 関係パターンの査定 第6回 社会情動的発達Ⅰ 第7回 社会情動的発達Ⅱ 第8回 関係テーマの査定 第9回 関係臨床Ⅰ 第10回 関係臨床Ⅱ 第11回 まとめ (レポート課題の説明) 第12回 プレゼンテーションⅠ 第13回 プレゼンテーションⅡ 第14回 プレゼンテーションⅢ 第15回 プレゼンテーションⅣ			
キーワード	対人関係、社会的ネットワーク、ソーシャルサポート、社会情動的発達、関係臨床		
教科書・教材・参考書	教科書は指定しません。使用教材は授業第1回に説明します。参考資料等は授業のなかで随時紹介します。		
成績評価の方法・基準等	(参加人数と教室によって変更あり) 全回出席、プレゼンテーションの準備と実施、レポート提出(2000字程度)を前提にします。(授業への積極的取組み3点・予習課題1点・復習課題1点)×10回+プレゼンテーション30点+レポート20点=100点のうち、60点以上を合格とします。		
受講要件(履修条件)	全回出席が可能なこと。集中して授業に取り組むこと。自分の言動に責任を持てること。		
本科目の位置づけ 学習・教育目標	本学教養教育の一部として、とくに「自主的に考え、発信する能力」、「学びを継続し自らを高め変革しようとする態度」、および「多様性を認め、相互に啓発し合う態度」の涵養に深く関わる科目です。 本学共通学士像のうち、「自ら学び、考え、主張し、行動を変革する素養を有する」に向けて、批判的思考の一視座と方法を獲得するのが目標です。		
備考(準備学習等)	毎回、予習/復習課題を出します。かなりハードな授業だと思いますので、覚悟の上で参加して下さい。		

2010年度 前期	曜日・校時 水2 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001004 授業科目(英語名)	●人間の科学(科学史) Human Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 430	
対象学生(クラス等)		科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 中村 修 / osamu.nakamura@nifty.ne.jp / 428 / 095-819-2727 / 月曜4, 5限目			
担当教員(オムニバス科目等)		中村 修	
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 科学は中立でも公平でもなく、権力に左右され、経済的利害に振り回されて歪んで発達してきた、ということについて環境問題、食の問題、避妊など具体的な事例を挙げながら、科学の経済依存性について展開する。また、科学が発達したのに、なぜ環境問題は深刻になったのか、という点についても議論を深める。 授業方法(学習指導法): 一方的な講義にならないよう、また考える力、話す力を養うため講義では、多くの学生に発言を求めながら、展開する。 到達目標: 科学が相対的なものであることを理解できる。人前で自分の考えをきちんと伝える力を身につける。環境問題と食の問題、男性学の関連について理解できる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 第1回 科学者のイメージ 科学、科学者とは何かについて議論する 第2回 商品としての科学 科学の経済依存性について議論する 第3回 なぜ山の上に木が生えているのか 循環の意義と、科学のアプローチについて議論する 第4回 循環の科学と循環を破壊する科学 第5回 科学が発達したのになぜ環境問題は深刻になったのか その1 第6回 科学が発達したのになぜ環境問題は深刻になったのか その2 水俣病を事例に 第7回 環境問題、食の問題、女性学、男性学の関連について 時代性、社会性を反映する科学について 第8回 経済学と科学 その1 経済学の非科学性 科学の経済性について 第9回 経済学と科学 その2 経済学の非科学性 科学の経済性について 第10回 経済学と科学 その3 経済学の非科学性 科学の経済性について 第11回 なぜ中絶を繰り返すのか 科学と宗教 その1 第12回 なぜ中絶を繰り返すのか 科学と宗教 その2 第13回 なぜ中絶を繰り返すのか 科学と宗教 その3 第14回 報告 1 レポートでまとめたことについて報告してもらいます 第15回 報告 2 レポートでまとめたことについて報告してもらいます			
キーワード	科学史、環境問題と科学、労働者としての科学者		
教科書・教材・参考書	「なぜ経済学は自然を無限ととらえたか」中村修 日本経済評論社(参考資料)		
成績評価の方法・基準等	レポート 50%、報告 50%で評価する。なお、レポートは、メールで提出すること。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 金3 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001006 授業科目(英語名)	●人間の科学(性と生) Human Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 1 0 2	
対象学生(クラス等) 学部優先	受講者の制限有り。指定選択科目の	科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 宮原 春美 / spring@nagasaki-u.ac.jp / 医学部保健学科4階宮原研究室 / 095-819-7954 / メールでまず連絡下さい			
担当教員(オムニバス科目等) 宮原 春美, 井田 洋子, 安日 泰子, 井川 掌			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 本講座は「人間の性とは何か」についてアプローチする。 近年、人々の性行動や規範は解放されてきたが、人々の生涯を豊かにする「人間関係としての性」の学習は保障されていない。この学習の不在に加えて、インターネットを頂点とするあふれるメディア情報に翻弄されているのが現代社会の姿ではなからうか。 人間の性は本能ではなく、学習により獲得されることが一つの特徴である。 「性」をテーマとして、自己と他者への思考を深め、性情報の取捨選択能力を培う。それらを通し、今後における個々人の豊かなセクシュアリティ確立とモラル形成を図る。 授業方法(学習指導法): 講義を中心に、一部演習・グループワークを取り入れる 到達目標: 1.人間の性とは何かについて、科学的、社会学的に考察できる。 2.人間の性の多様性と関係性について討議できる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 以下の授業内容に応じて担当教員がそれぞれの専門分野から講義を行う。 1, 2回: 人間の性とは何かについて考える。 性科学で明らかにされてきた学際的な事実を知る。進化の過程からみたヒトの性の特徴、キンゼイレポートに始まる人々の性に対する様々な調査結果、マスターズ・ジョンソンが実験的に明らかにした「人間の性反応」などを学習する。まとめとしてWHOの定義した「セクシュアリティ」という概念について学ぶ。 3回: 性別(セックス)の成り立ちの意味を科学的、社会学的に学ぶ。またフェミニズムの視点から、ジェンダーについて学ぶ。 4～6回: 人間の体の仕組みを「性の視点」から学ぶ。 相互の理解と尊重のために、基本的な性器の構造と生殖(妊娠・分娩)の仕組みを学習する。特に情報の乏しい男性の身体についても学び、セックスや性器に関する誤解を是正し、正確な性情報の選択能力を培う。 7回: 性感染症の具体的な知識を得ることによって、若年世代での性感染症蔓延の実態を認識する。性的健康を可能にする行動やパートナーとの関係性について考える。AIDSを始めとする性感染症の最新情報を得る。 8～10回: リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて学ぶ。 リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて概観し、そのいくつかの健康課題について具体的な学習を通して豊かな男女の関係をいかに築くかを考える。 ・人工妊娠中絶に関する法律とその歴史的背景について ・避妊法(低用量ピル、緊急避妊法、コンドームなど)の進歩と実際について ・健康教育としての性教育の理論と実際について 10, 11回: 人間関係としての性を考える。 個人のあり方はその時代の男女の社会関係そのものであり、社会学的視点から愛、家族、結婚等について考える。 12～15回: 人間の性の多様性を学ぶ。 文化人類学的な視点から性の多様性を知る。また基本的人権の視点から障害者、高齢者、同性愛者、トランスジェンダーなどについて学ぶ。またレイプ、ドメスティック・バイオレンス、性的虐待、性の商品化などの現況を把握し、性行為における同意の質を考える。			
キーワード	Sexuality, 多様性, ジェンダー, 同意, リプロダクティブヘルス/ライツ		
教科書・教材・参考書	「人間の性とは何か」ミルトン・グレイメント(小学館)、「セクソロジー・ノート」村瀬幸浩(十月舎)「ジェンダーの西洋史」井上洋子他(法律文化社)、「性現象論」加藤秀一(勁草書房) 「Human Sexuality in a World of Diversity」Rathus, Spencer A. (Allyn&Bacon) 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」北村邦彦(メディカ出版)、「中絶論争とアメリカ社会」荻野美穂(岩波書店)、「ニューキンゼイレポート」(小学館)		
成績評価の方法・基準等	各授業担当者毎に小テストを行う(40%)。また最終的なまとめとして課題レポート(40%)を提出する。授業への貢献度(20%)が悪い場合は評価の対象としない。		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 火4 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001008 授業科目(英語名)	●人間の科学(映画から見る精神医学:シネサイキアトリーへの招待) Human Sciences		
対象年次 1年,2年,3年,4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 430	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 小澤 寛樹 / ozawa07@nagasaki-u.ac.jp / 精神神経科 / 095-819-7293 / 水 12:00-13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	小澤 寛樹		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 具体的にイメージしにくい精神医学の様々な現象、症状、問題に関して映画・テレビなどの映像表現を通じて、人のこころに対する理解を深め、自己の考え・感情を理論的・能動的に議論することを目的とする。 授業方法(学習指導法): 精神医学的問題をテーマとした映画あるいはドラマを取り上げ鑑賞する。疑問点を教員とともにグループ討論とし、時にディベートし、理解を深める。 到達目標: 主要な精神疾患患者の症状・病態・生活・人生を語るができる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 人数にもよりますが、一例として下記のような方法を挙げておきます。 テーマ、映画を決める(教員が題材についてはアドバイスします) →担当学生がインターネット、教科書などで精神医学・映画の概要を調べてくる →担当学生が精神医学に関するプレゼンテーション、教員補足 →みんなで映画の鑑賞 →担当学生が映画の解説と感想を述べる。その際、学生は話し合ってもらいたい論点を提示する →論点中心に皆で話し合いと映画の振り返り →感想を次回までにA4 1枚以上に書き、提出 第1回・第2回:オリエンテーション 第3回、第5回、第7回、第9回、第11回、第13回:各回1つの映画について上記の通りの授業内容を行う。何回目にもどのテーマ(統合失調症、境界例、強迫性障害、うつ病、解離性同一性障害、器質性精神病)・映画にするかは、オリエンテーションで学生と相談の上、決定する。 【注意】 3回目以降の講義場所は大学病院内の精神科カンファレンスルーム(木曜17時開始)となります。 映画やドラマを鑑賞するという都合上、2コマ分の時間を利用します。(日程は講義初日に皆さんと相談して決定します) 5校時目以降に他の科目を受講される方は、履修をご遠慮ください。 講義初日の詳細(教室など)を掲示予定ですので、ご注意ください。			
キーワード			
教科書・教材・参考書	プリントの配布		
成績評価の方法・基準等	レポート評価(50%) ディスカッションへの参加状況(50%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 前期	曜日・校時 金3 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001006 授業科目(英語名)	●人間の科学(性と生) Human Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等) 受講者の制限有り。指定選択科目の学部優先	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 宮原 春美 / spring@nagasaki-u.ac.jp / 医学部保健学科4階宮原研究室 / 095-819-7954 / メールでまず連絡下さい			
担当教員(オムニバス科目等) 宮原 春美, 井田 洋子, 安日 泰子, 井川 掌			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 本講座は「人間の性とは何か」についてアプローチする。 近年、人々の性行動や規範は解放されてきたが、人々の生涯を豊かにする「人間関係としての性」の学習は保障されていない。この学習の不在に加えて、インターネットを頂点とするあふれるメディア情報に翻弄されているのが現代社会の姿ではなからうか。 人間の性は本能ではなく、学習により獲得されることが一つの特徴である。 「性」をテーマとして、自己と他者への思考を深め、性情報の取捨選択能力を培う。それらを通し、今後における個々人の豊かなセクシュアリティ確立とモラル形成を図る。 授業方法(学習指導法): 講義を中心に、一部演習・グループワークを取り入れる 到達目標: 1.人間の性とは何かについて、科学的、社会学的に考察できる。2.人間の性の多様性と関係性について討議できる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 以下の授業内容に応じて担当教員がそれぞれの専門分野から講義を行う。 1, 2回: 人間の性とは何かについて考える。 性科学で明らかにされてきた学際的な事実を知る。進化の過程からみたヒトの性の特徴、キンゼイレポートに始まる人々の性に対する様々な調査結果、マスターズ・ジョンソンが実験的に明らかにした「人間の性反応」などを学習する。まとめとしてWHOの定義した「セクシュアリティ」という概念について学ぶ。 3回: 性別(セックス)の成り立ちの意味を科学的、社会学的に学ぶ。またフェミニズムの視点から、ジェンダーについて学ぶ。 4～6回: 人間の体の仕組みを「性の視点」から学ぶ。 相互の理解と尊重のために、基本的な性器の構造と生殖(妊娠・分娩)の仕組みを学習する。特に情報の乏しい男性の身体についても学び、セックスや性器に関する誤解を是正し、正確な性情報の選択能力を培う。 7回: 性感染症の具体的な知識を得ることによって、若年世代での性感染症蔓延の実態を認識する。性的健康を可能にする行動やパートナーとの関係性について考える。AIDSを始めとする性感染症の最新情報を得る。 8～10回: リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて学ぶ。 リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて概観し、そのいくつかの健康課題について具体的な学習を通して豊かな男女の関係をいかに築くかを考える。 ・人工妊娠中絶に関する法律とその歴史的背景について ・避妊法(低用量ピル、緊急避妊法、コンドームなど)の進歩と実際について ・健康教育としての性教育の理論とその実際について 10, 11回: 人間関係としての性を考える。 個人のあり方はその時代の男女の社会関係そのものであり、社会学的視点から愛、家族、結婚等について考える。 12～15回: 人間の性の多様性を学ぶ。 文化人類学的な視点から性の多様性を知る。また基本的人権の視点から障害者、高齢者、同性愛者、トランスジェンダーなどについて学ぶ。またレイプ、ドメスティック・バイオレンス、性的虐待、性の商品化などの現況を把握し、性行為における同意の質を考える。			
キーワード	Sexuality, 多様性, ジェンダー, 同意, リプロダクティブヘルス/ライツ		
教科書・教材・参考書	「人間の性とは何か」ミルトン・ダイヤモンド(小学館)、「セクソロジー・ノート」村瀬幸浩(十月舎) 「ジェンダーの西洋史」井上洋子他(法律文化社)、「性現象論」加藤秀一(勁草書房) 「Human Sexuality in a World of Diversity」Rathus, Spencer A. (Allyn&Bacon) 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」北村邦彦(メディカ出版)、「中絶論争とアメリカ社会」荻野美穂(岩波書店)、「ニューキンゼイレポート」(小学館)		
成績評価の方法・基準等	各授業担当者毎に小テストを行う(40%)。また最終的なまとめとして課題レポート(40%)を提出する。授業への貢献度(20%)が悪い場合は評価の対象としない。		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 水4 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001019 授業科目(英語名)	●人間の科学(身体関係論入門) Human Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 430	
対象学生(クラス等)	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 山地 弘起 / hyamaji@nagasaki-u.ac.jp / / / 必要があればメールにて調整します			
担当教員(オムニバス科目等)	山地 弘起		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
ねらい: 皆さんは、人と話しているとき、パソコンで作業をしているとき、さらには、授業に出ているとき、どんな身体でいますか?不思議な質問だと思ったかもしれませんが。普段あまり意識しないことでしょうか。しかし、どんな身体体験をしているかは、状況からの要請だけでなく、個人的な心身の使い方の癖にもとづくものでもあります。また、身体のあり方が変わること、状況が違った意味をもってくることも起こります。少し大げさに言えば、身体は、自分の住みこんでいる世界であり、自分の生き方の現れ(=姿勢)なのです。したがって、姿勢が変わると世界も変わります。こうした視点から、本科目では、自分と身体との関係、および身体と外界との関係について理解を深め、習慣を越えた、より自由で手応えのある生の可能性を探ります。普段あまり意識に上らない、生きてはたらく身体を、非日常の視線でいねいに捉え返すことで、世界と思考の幅が大きく広がることを願っています。			
授業方法(学習指導法): (参加人数と教室によって変更あり) 関連した代表的な考え方を紹介しながら、体験学習を軸に進めます。予習/復習課題とともに、二回のレポート課題を出します。期末試験は実施しません。			
到達目標: (参加人数と教室によって変更あり) ・日常的な心身の体験傾向を理解する。 ・身体の内側に意識を向け、さまざまな感覚や感情の推移を体験する。 ・自発的な身体の動きに任せることで、意識下の調整過程に気づく。 ・身体次元の体験を、動きや絵など言葉以外で表現することができる。 ・身体関係論の代表的な考え方を、二つ以上、体験を踏まえて説明することができる。 ・無自覚の社会適応の問題点とそれらへの対処案を、明示することができる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (参加人数と教室によって変更あり) 第1回授業において、扱う内容や学習方法、評価の仕方等を説明し、参加者との間で必要な調整を行う予定です。第2回から第7回までは、身体体験を徐々に深めることに重点を置き、身体心理教育の発想と代表的な方法を紹介していきます。第8回はそこまでのまとめに用いるとともに、第一回レポート課題の締切です。第9回から第14回は、身体心理臨床における三つの代表的な立場—精神力動学、人間主義、認知行動主義—から、身体関係論の理論的な枠組を紹介していきます。但し、体験学習にもとづく理解を重視し、言葉が先行しないよう、留意していきたいと思えます。第15回に全体のまとめを行い、第二回レポート課題を説明します。			
第1回 身体関係論の射程 (第一回レポート課題提示) 第8回 中間のまとめ (第一回レポート提出締切) 第2回 アウェアネスⅠ 第9回 精神力動学的立場Ⅰ 第3回 アウェアネスⅡ 第10回 精神力動学的立場Ⅱ 第4回 ムーブメントⅠ 第11回 人間主義的立場Ⅰ 第5回 ムーブメントⅡ 第12回 人間主義的立場Ⅱ 第6回 呼吸とタッチⅠ 第13回 認知行動主義的立場Ⅰ 第7回 呼吸とタッチⅡ 第14回 認知行動主義的立場Ⅱ 第15回 全体のまとめ (第二回レポート課題提示)			
キーワード	ソマティクス、身体学、身体関係論、身体心理学、身体心理教育、身体心理療法		
教科書・教材・参考書	本科目では、自分の身体を読みひらく作業を行いますので、皆さん自身がテキストです。取替がききませんので、粗末に扱わないよう、注意してください。参考資料等は授業のなかで随時紹介します。		
成績評価の方法・基準等	(参加人数と教室によって変更あり) 全回出席と二回のレポート提出(いずれも2000字程度)を前提にします。(授業への積極的取組み3点・予習課題1点・復習課題1点)×12回+中間レポート20点+最終レポート20点=100点のうち、60点以上を合格とします。かなりハードな授業だと思いますので、覚悟の上で参加して下さい。		
受講要件(履修条件)	全回出席が可能なこと。集中して授業に取り組むこと。自分の言動に責任を持つこと。		
本科目の位置づけ 学習・教育目標	本学教養教育の一部として、とくに「自主的に考え、発信する能力」および「学びを継続し自らを高め変革しようとする態度」の涵養に深く関わる科目です。 本学共通学士像のうち、「自ら学び、考え、主張し、行動を変革する素養を有する」に向けて、批判的思考の一視座と方法を獲得するのが目標です。		
備考(準備学習等)	いろいろな姿勢や動きをしても大丈夫な服装で参加してください(身体を締め付ける服装や、スカートやサンダル等は避けてください)。		

2010年度 後期	曜日・校時 木1 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001010 授業科目(英語名)	●人間の科学(ピアジェとフロイト) Human Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 430	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 綿巻 徹 / / 教育学部2階217番研究室 / 095-819-2397 / 毎週水曜日16時30分から17時30分まで			
担当教員(オムニバス科目等)	綿巻 徹		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>ねらい: ピアジェ、フロイトの理論構成の特徴、その後の修正発展、対立理論との違いを学ぶことをとおして、人間科学の着眼、ロジックの面白さを知るとともに、認知、感情、自我(自己)の側面から人間発達についての理解を深めることによって、個人の成長発達、個人と社会の関係の的確に捉えることのできる人材となることを期待する。</p> <p>授業方法(学習指導法): 講義形式で行う。</p> <p>到達目標: ピアジェ、フロイト理論のカギとなる説明概念、人間発達を両理論はどのようにモデル化しているか、後継・対立理論との論点は何かを説明できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアジェの人物像、発生的認識論(相互作用、適応、操作) 2. 構成主義的認知構造論(シエマ、同化、調節、均衡) 3. 感覚運動知能(意図の発生、手段-目的関係、模倣、物の永続性) 4. 前操作的思考(表象とイメージ、自己中心性) 5. 具体的操作、形式的操作(脱中心化、保存、可逆性、仮説演繹的思考) 6. ポストピアジェ派の認知研究(局所相同説、表象書換モデル) 			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>本講義では次の2大理論について学習する。その1つはピアジェ理論である。これは、感覚運動知能、表象能力、操作能力の発達という視点から人間の認知能力の発達を構成論的にモデル化した理論である。もう1つはフロイト理論である。これは、親子間、男女間の愛情関係(性的エネルギー)を鍵概念にして、自我の発達を力動的にモデル化した理論である。両理論の核となる概念装置とそれを導き出ために使われた経験的証拠、手法について学ぶとともに、両人物の伝記的背景(その人物像や学問背景)、代表的な後継理論と対立理論について学ぶことをとおして、人間発達に関する理解を深める。</p> <p>2回目以降毎回、前回講義内容の習得状況を確認するための小テストを実施する。</p> <p>第1回 10月7日 ピアジェの人物像と時代背景(発生的認識論、相互作用、適応、操作、生物学、論理学)</p> <p>第2回 10月14日 構成主義的認知構造論(シエマ、同化、調節、均衡)</p> <p>第3回 10月21日 感覚運動知能(意図の発生、手段-目的関係、模倣、物の永続性)</p> <p>第4回 10月28日 前操作的思考(表象とイメージ、前概念、自己中心性)</p> <p>第5回 11月4日 具体的操作、形式的操作(脱中心化、保存、可逆性、仮説演繹的思考)</p> <p>第6回 11月11日 ポストピアジェ派の認知研究(局所相同説、表象書き換えモデル)</p> <p>第7回 11月18日 ヴィゴツキー理論(発達と教授/学習の関係、協働、支え)</p> <p>第8回 11月25日 認知構造をめぐる論争(チョムスキー、フォーダーの生得モジュール言語理論)</p> <p>第9回 12月2日 フロイトの人物像と時代背景(医学、脳神経学、力動論、催眠療法、自由連想、精神分析)</p> <p>第10回 12月9日 リビドーと無意識の理論(神経症、夢、失錯行為)</p> <p>第11回 12月16日 抑圧と抵抗、退行と固着、防衛機制、転移</p> <p>第12回 1月6日 エディプスコンプレックスと幼児健忘</p> <p>第13回 1月13日 リビドーとコンプレックスをめぐる論争(ユング理論、アドラー理論)</p> <p>第14回 1月20日 健康なパーソナリティの発達(エリクソン理論)</p> <p>第15回 1月27日 自己をめぐる新しい理論(コフォート理論)</p> <p>第16回 2月10日 定期試験</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	<p>【教科書】 山内光哉編 発達心理学第2版上 ナカニシヤ出版</p> <p>【参考書】 ピアジェ 発生的認識論 文庫クセジュ 白水社 ピアジェ・イネルデ 新しい児童心理学 文庫クセジュ 白水社 フロイト 精神分析入門上下巻 新潮文庫 フロイト 自我論集 ちくま学芸文庫 フロイト エロス論集 ちくま学芸文庫 フォーダー、J.A. 精神のモジュール形式 産業図書</p>		
成績評価の方法・基準等	毎回の小テスト合計点70点(5点×14回)、定期試験30点の配点とする。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 木1 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001011 授業科目(英語名)	●人間の科学(心理学概論) Human Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等)		科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 朝長 昌三 / tomonaga@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部 / 095-819-2295 / 木曜日, 2時限			
担当教員(オムニバス科目等)		朝長 昌三	
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 人間の行動を「適応と行動」, 「知能」, 「パーソナリティ」の分野から検討することを目的とする。 授業方法(学習指導法): 資料にもとづく講義である。 到達目標: ① 科学としての心理学の定義を理解する。② 人間の行動に関して, 「適応行動」, 「知能」, 「パーソナリティ」を理解する。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 科学としての心理学を理解する。 第1回 「心理学とは, 人間や動物の行動を研究する科学である」の説明(1) 第2回 「心理学とは, 人間や動物の行動を研究する科学である」の説明(2) 第3回 心理学の歴史(イギリス, ドイツ, アメリカの心理学)(1) 第4回 心理学の歴史(イギリス, ドイツ, アメリカの心理学)(2) 第5回 歴史のまとめ 第6回 行動と適応(1) 第7回 行動と適応(2) 第8回 行動と適応のまとめ 第9回 知能 第10回 知能のまとめ 第11回 パーソナリティ(1) 第12回 パーソナリティ(2) 第13回 パーソナリティ(3) 第14回 パーソナリティ(4) 第15回 パーソナリティのまとめ			
キーワード			
教科書・教材・参考書		心理学—経験と行動の科学, 鈴木清 編, ナカニシヤ出版	
成績評価の方法・基準等		4回の試験(60%)と授業の貢献度(40%)の結果を総合的に評価する	
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 木2 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001012 授業科目(英語名)	●人間の科学(脳の機能と学習力) Human Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 430	
対象学生(クラス等)	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 鈴木 保巳 / ys11@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部本館2階 216 / 095-819-2385 / メールにて時間を確認の上入室下さい。			
担当教員(オムニバス科目等)	鈴木 保巳		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: ・脳機能を基盤として成り立つ学習行動について理解するきっかけを作る。 ・発達障害の脳研究に触れる。 ・人の行動を科学的に追求する視点を涵養する。 授業方法(学習指導法): パワーポイントを利用した講義形式。毎回、資料を配布するので、授業時の説明事項を記入すること。 到達目標: ・人の行動が脳機能に裏付けられたものであることを理解できる。 ・人の学習力について脳機能と対応させて簡単に説明できる。 ・学習に関する脳機能研究が生活支援・教育的支援にもたらす影響について考えられる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業は参考書の内容に沿って進める。学習に関する脳機能研究が何を明らかにしつつ、生活支援・教育的支援の考え方にどのように寄与することができるかについて平易に解説する。 下記参考書は脳の学習の入門書で且つ最新の知見にあふれています。興味のある方は、是非、通読を進めます。 第1回 10月7日 オリエンテーション 第2回 10月14日 脳の発達・発育 第3回 10月21日 幼児の言葉と教 第4回 10月28日 数学のための脳 第5回 11月4日 読み書きのための脳 第6回 11月11日 読みの学習とその障害 第7回 11月18日 社会的発達・情緒的発達の障害 第8回 11月25日 思春期の脳 第9回 12月2日 生涯にわたる学習 第10回 12月9日 記憶と想起 第11回 12月16日 さまざまな学習法 第12回 1月6日 脳の学習力を活用する 第13回 1月13日 脳研究を支える技術 第14回 1月20日 脳の学習力をめぐるトピックス 第15回 1月27日 「まとめ」および「レポート出題」 第16回 2月10日 授業内レポート			
キーワード			
教科書・教材・参考書	配付資料・・・ファイリングし、いつでも参照できるようにしておくこと。 参考書・・・S. J. ブレイクモア, U. フリス: 脳の学習力ー子育てと教育へのアドバイス. 岩波書店, 2006 ISBN:4-00-005797-9 2800円(税別)		
成績評価の方法・基準等	・授業への参加度: 3割・・・単に出席していることではなく、能動的な発言や質問があるか、資料への説明事項の記入が的確になされているかを判定材料とする。 ・レポート: 7割・・・配付資料や説明事項に関する理解度、授業のねらいの達成度についての設問を出題する。 ・4回以上欠席は自動的に不可。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)	生命体としてのヒト、生活主体としての人、社会的存在としての人間に興味を持って受講して下さい。		

2010年度 後期	曜日・校時 木3 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001017 授業科目(英語名)	●人間の科学(カリキュラムを学ぶ) Human Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 205	
対象学生(クラス等) 1-4年次	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 岡田 佳子 / okadayo@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部新館4階 / 095-819-2091 (内線2091) / 水 14:00-15:30、あるいはメールで適宜連絡して下さい。			
担当教員(オムニバス科目等)	岡田 佳子		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>ねらい: 皆さんは「カリキュラム」という言葉を聞いた時、何を想像するのでしょうか?もしかしたら今こうやってシラバスで科目群が並ぶ様を見て、このシラバス全体が一つのカリキュラムだと考えるかもしれませんし、学生便覧に記載される単位配当表のことを指し示すのではないかと思う人もいるかもしれませんね。</p> <p>ですが、実際のカリキュラムとは、そういった教育の計画のみならず、教師が教える内容それ自体や、生徒・学生の教育経験などをも含んだ、幅広い意味を持っているものです。</p> <p>カリキュラムにはその時々々の社会状況が反映されますし、また、カリ</p> <p>授業方法(学習指導法): 主に講義形式で行いますが、授業中には個人ワーク・グループワークも実施します。</p> <p>到達目標: ・カリキュラム概念と基本的な編成法について説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の変遷過程について知る。 ・カリキュラムと社会の関係について考察し、自らの意見を提示できる。 ・自分のこれまでの学習経験をカリキュラム論の視点から捉えなおすことができる。 			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>本科目の構成は大きく3つに分けられます。</p> <p>まず第1-5回では、カリキュラムの基本的な概念と編成法について学びます。</p> <p>次に、第6-10回では、学校における教育課程の変遷とカリキュラムのマネジメントについて学びます。</p> <p>最後に、第11-15回では、カリキュラムと社会構造の関係や、カリキュラムが人に及ぼす影響について学びます。</p> <p>これらの内容を通じて、カリキュラムに対する理解を深めていきましょう。</p> <p>第1回～第5回: <カリキュラムとは何か> カリキュラム概念、カリキュラムの思想と構造、カリキュラムの編成法</p> <p>第6回～第10回: <学校教育とカリキュラム> 教育課程の変遷、生きる力、カリキュラム開発、カリキュラム評価</p> <p>第10回～第15回: <人間・社会とカリキュラム> 近代学校批判とカリキュラム、社会階層とカリキュラム、隠れたカリキュラム</p> <p>(毎回の授業計画は、第一回目の授業でお渡しします。学生の理解度に応じて変更する場合がありますが、その際は授業でお知らせします)</p>			
キーワード	カリキュラム、教育課程、学習指導要領、学習経験、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム		
教科書・教材・参考書	教科書はありません。 参考書は適宜授業内で提示します。		
成績評価の方法・基準等	<p>●評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)コメントシート 2)課題 3)テスト・レポート <p>●評価基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)カリキュラムに関する基礎的事項を理解できているか 2)教育に対する客観的な視点が持っているか 3)授業内容を踏まえたうえで、自分の意見をわかりやすく述べているか 		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ 学習・教育目標	教育や学習について、客観的な視点を持ちたい人に役立つ科目です。 本科目の履修によって批判的思考力、理解力、分析力の修得が期待されます。		
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 金3 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001014 授業科目(英語名)	●人間の科学(対人関係と適応) Human Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室	
対象学生(クラス等)		科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 谷口 弘一 / taniguti@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部 215 番研究室 / / 毎週金曜日 15:00～16:00			
担当教員(オムニバス科目等)		谷口 弘一	
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 対人関係で生じる様々な問題に対して、どのようにすれば、適切かつ効果的に対処でき、精神的健康や適応を維持できるかについて理解すること。 授業方法(学習指導法): 講義形式(視聴覚教材、心理尺度等の実習教材、プリントを適宜使用) 到達目標: 対人関係のポジティブな側面とネガティブな側面について説明できる。 対人関係に起因するさまざまなストレスに対して、適切な対処方略を取ることができる。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 対人関係には、何か困ったときに助けてもらうことができるという良い面(ポジティブな側面)と、意見がぶつかりあって対立や衝突をしてしまうという悪い面(ネガティブな側面)の2つの側面がある。これら2つの側面は、いずれも個人の精神的健康や適応に対して大きな影響力をもっている。本講義では、対人関係の二面性、対人ストレスコーピング、ソーシャルサポートといったトピックを取り上げ解説する。 16回 2月4日: 定期試験 第1回 10月1日 ストレスをもたらす対人関係ー対人関係の両面性 第2回 10月8日 ストレスをもたらす対人関係ーネガティブな対人関係(1) 第3回 10月15日 ストレスをもたらす対人関係ーネガティブな対人関係(2) 第4回 10月22日 ストレスをもたらす対人関係ー対人ストレス研究の現状と今後 第5回 10月29日 対人ストレスコーピングー心理的ストレス過程におけるコーピングの役割 第6回 11月5日 対人ストレスコーピングー対人ストレスコーピングの概念・測定・種類 第7回 11月12日 対人ストレスコーピングー対人ストレスコーピングと精神的健康 第8回 11月26日 対人ストレスコーピングーさまざまな対人関係における対人ストレスコーピング 第9回 12月3日 対人ストレスコーピングー対人ストレスコーピング研究の展開 第10回 12月10日 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポート研究の経緯 第11回 12月17日 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポートの概念・測定 第12回 12月24日 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポートの効果 第13回 1月7日 ソーシャルサポートの基礎と応用ーソーシャルサポートとよりよい対人関係 第14回 1月21日 ソーシャルサポートの互恵性ー互恵性の理論的背景 第15回 1月28日 ソーシャルサポートの互恵性ー互恵性に影響を与える要因			
キーワード	対人関係、精神的健康、対人ストレス、対人ストレスコーピング、ソーシャルサポート		
教科書・教材・参考書	対人関係と適応の心理学ーストレス対処の理論と実践ー 北大路書房		
成績評価の方法・基準等	期末試験 100% (教科書等持ち込み不可) 授業で募集する実験や調査などへの参加による学習、もしくはそれに替わる課題なども評価に加味する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 金3 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001015 授業科目(英語名)	●人間の科学(人の老化と死_高齢期社会を生きる) Human Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 102	
対象学生(クラス等)	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 中園 一郎 / nakasono@nagasaki-u.ac.jp / 医学部法医学教室 / 095-819-7076 / 金曜日 16:30～17:30			
担当教員(オムニバス科目等)	中園 一郎, 下川 功, 池松 和哉, 森 俊介, ミテイ		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
ねらい: 「人の死」および「人の老化」の理解と「尊厳死」などの死生学並びに高齢期社会のあり方(生き方)等について考える上での基礎的知識の習得			
授業方法(学習指導法): プリントなどの資料を用いるとともに、実際の症例等を提示して講義を行う			
到達目標: 人の死、「人の老化」について理解でき、「尊厳死」などの死生学について自らの考えを構築する。また、高齢期社会のあり方(生き方)について考察する。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週の授業内容を含む)			
「人の老化と死」について病理・細胞生物学的に概説し、尊厳死などの死生学(タナトロジー)に関する入門的講義を行う。また、高齢期社会をいかに生きてゆくべきかを考察する。			
第1回 人の死について(1)(中園)人の生から死への過程を概説し、脳死および植物状態について理解を深め、人の死とは何かを考える。			
第2回 人の死について(1)(中園)人の生から死への過程を概説し、脳死および植物状態について理解を深め、人の死とは何かを考える。			
第3回 人の死について(1)(中園)人の生から死への過程を概説し、脳死および植物状態について理解を深め、人の死とは何かを考える。			
第4回 人の死について(1)(中園)人の生から死への過程を概説し、脳死および植物状態について理解を深め、人の死とは何かを考える。			
第5回 人の死について(2)(池松)乳幼児や成人に発症する突然死例を呈示し、人の突然の死について考える。			
第6回 人の死について(2)(池松)乳幼児や成人に発症する突然死例を呈示し、人の突然の死について考える。			
第7回 人の死について(3)(阿部)社会問題となっている自殺について、社会的・生物学的・法律的な側面から検討を加える。			
第8回 人の死について(2)(阿部)社会問題となっている自殺について、社会的・生物学的・法律的な側面から検討を加える。			
第9回 細胞における老化現象(下川)人の老化現象を細胞生物学的に理解するために、これまでに提唱されたエラー説とプログラム説に大別し、それぞれを概説する。また、脳の老化と神経細胞の老化について認知症やアルツハイマー病などの症例を呈示する。			
第10回 細胞における老化現象(下川)人の老化現象を細胞生物学的に理解するために、これまでに提唱されたエラー説とプログラム説に大別し、それぞれを概説する。また、脳の老化と神経細胞の老化について認知症やアルツハイマー病などの症例を呈示する。			
第11回 細胞における老化現象(下川)人の老化現象を細胞生物学的に理解するために、これまでに提唱されたエラー説とプログラム説に大別し、それぞれを概説する。また、脳の老化と神経細胞の老化について認知症やアルツハイマー病などの症例を呈示する。			
第12回 高齢期社会を生きる(森)「安心して死ぬ」とは、たとえ障害があろうと、一人暮らしであろうと誰に気兼ねすることなく、自分の意思で分の死に場所が選べることである。そのような地域を実現するためには、保健、医療、福祉の連携が当然であるが地域社会の再構築が必須である。そのキーワードとなる「人は生まれ、そして死んでゆく」という人にとって絶対なことについて死生学も含めて考える。			
第13回 高齢期社会を生きる(森)「安心して死ぬ」とは、たとえ障害があろうと、一人暮らしであろうと誰に気兼ねすることなく、自分の意思で分の死に場所が選べることである。そのような地域を実現するためには、保健、医療、福祉の連携が当然であるが地域社会の再構築が必須である。そのキーワードとなる「人は生まれ、そして死んでゆく」という人にとって絶対なことについて死生学も含めて考える。			
第14回 高齢期社会を生きる(森)「安心して死ぬ」とは、たとえ障害があろうと、一人暮らしであろうと誰に気兼ねすることなく、自分の意思で分の死に場所が選べることである。そのような地域を実現するためには、保健、医療、福祉の連携が当然であるが地域社会の再構築が必須である。そのキーワードとなる「人は生まれ、そして死んでゆく」という人にとって絶対なことについて死生学も含めて考える。			
第15回 まとめ(中園・池松)人の老化・死について講義にて学んだことを踏まえ、時事問題について討議する。			
キーワード	人の老化、人の死、尊厳死、死生学、高齢期社会		
教科書・教材・参考書	教科書を用いず授業内容に沿ったプリント(資料)を配布する。参考図書などを適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	講義時間内、あるいは後に小テスト(30%)やレポート提出(70%)により評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 金4 ～	必修選択 選択	単位数 2
授業コード 20100567001016 授業科目(英語名)	●人間の科学(諸外国の教育と子ども) Human Sciences		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 321	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 楠山 研 / kusuyama@nagasaki-u.ac.jp / 教育学部2階219番研究室 / kusuyama@nagasaki-u.ac.jp / 水曜3限。 できればメールで連絡してください			
担当教員(オムニバス科目等)	楠山 研		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>ねらい: 教育は世界各地で古くから実施されてきた人間らしい営みということができます。その営みには一定の共通性がある一方で、その土地の歴史や文化、社会と密接に結びついているため、私たちが驚くような違いをもっています。この授業では、諸外国の教育制度や教育実践との比較をもとに、日本の教育の特徴と問題点を明らかにします。また日本国内にも文化や言語をめぐる様々な問題があることを確認します。こうして自分の教育体験のみを頼りに語ってしまいがちな「日本の教育」を客観視することを目指します。</p> <p>授業方法(学習指導法): 講義形式を中心に、授業中に配布するプリントに基づいて進めていきます。授業中に書いてもらう小レポート・アンケート等も、授業の一環として重視します。</p> <p>到達目標: 教育や学校が現地の歴史や文化、社会と密接に結びついていることを認識できる。日本国内における異文化をめぐる様々な教育問題の存在を知る。その上で日本の教育問題について様々な視点から考えられるようになる。</p>			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>①オリエンテーション ②教育がめざすもの ③諸外国の教育を学ぶために ④日本の教育、世界の教育 ⑤世界の教育制度、学校制度 ⑥世界の教育(1)ヨーロッパ ⑦世界の教育(2)アジアほか ⑧世界の教育(3)アメリカ ⑨学力の国際比較 ⑩一部の子どもに特別なことを教えること ⑪小学生に外国語を教えるということーアジアにおける早期英語教育からー(1) ⑫小学生に外国語を教えるということーアジアにおける早期英語教育からー(2) ⑬海外子女と帰国子女 ⑭ニューカマーの子どもと日本の学校 ⑮諸外国の教育をみてわかること ⑯ 2月4日 定期試験</p> <p>第1回 10月1日 オリエンテーション 第2回 10月8日 教育がめざすもの 第3回 10月15日 諸外国の教育を学ぶために 第4回 10月22日 日本の教育、世界の教育 第5回 10月29日 世界の教育制度、学校制度 第6回 11月5日 世界の教育(1)ヨーロッパ 第7回 11月12日 世界の教育(2)アジアほか 第8回 11月26日 世界の教育(3)アメリカ 第9回 12月3日 学力の国際比較 第10回 12月10日 一部の子どもに特別なことを教えること 第11回 12月17日 小学生に外国語を教えるということーアジアにおける早期英語教育からー(1) 第12回 12月24日 小学生に外国語を教えるということーアジアにおける早期英語教育からー(2) 第13回 1月7日 海外子女と帰国子女 第14回 1月21日 ニューカマーの子どもと日本の学校 第15回 1月28日 諸外国の教育をみてわかること 第16回 2月4日 定期試験</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書は特に指定しません。主な参考書は以下の通り。・原清治、山内乾史、杉本均編著『教育の比較社会学』学文社、2004年。 ・田中圭治郎編著『比較教育学の基礎』ナカニシヤ出版、2004年。 他は授業時に随時紹介します。		
成績評価の方法・基準等	小レポート・アンケート等 (50%) 期末テスト (50%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

2010年度 後期	曜日・校時 金4 ～	必修選択 選択	単位数 2																																																
授業コード 20100567001020 授業科目(英語名)	●人間の科学(青年の心理—大学生編) Human Sciences																																																		
対象年次 1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 講義科目	教室 [全] 303																																																	
対象学生(クラス等)		科目分類 人間科学科目																																																	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 山地 弘起 / hyamaji@nagasaki-u.ac.jp / / / 必要があればメールにて調整します																																																			
担当教員(オムニバス科目等)		山地 弘起																																																	
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 ねらい: 皆さんは、青年という、どのようなイメージが浮かびますか?通常、青年期とは、中学生・高校生・大学生の年齢にあたるほぼ10年位をさすことが多いのですが、場合によっては30歳あたりまで延長して考えることもあります。恐らくほとんどの受講者は、まだ青年期のまっただ中であって、自分たちの共通の特徴を整理するのは難しいかもしないですね。しかし、その一方、いまの中学生や高校生たちを共感的に理解できるのは、青年期から遠く離れてしまった私よりも、皆さんの方かもしれません。(ちなみに私は、中年期後半を経過中です。)																																																			
授業方法(学習指導法): (参加人数と教室によって変更あり) 自己理解・他者理解の実習を交えながら、講義と話し合いを行っていきます。受講者には、毎回の予習/復習課題を積み重ねて、気づきと学びをまとめて発表し、最終レポートを書いてもらいます。																																																			
到達目標: (参加人数と教室によって変更あり) ・自分のパーソナリティの傾向を振り返る。・自分の対人関係の傾向を振り返る。・自分のこれまでの発達過程を振り返る。・パーソナリティをとらえるキーワードを説明することができる。・対人関係をとらえるキーワードを説明することができる。・発達をとらえるキーワードを説明することができる。・自己理解および他者理解のための方法を説明することができる。・大学生の発達課題を説明することができる。・大学生の発達課題への対処方法を、少なくとも一つ提案すること																																																			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週の授業内容を含む) (参加人数と教室によって変更あり) 第1回授業において、扱う内容や学習方法、評価の仕方等を説明し、受講者との間で必要な調整を行う予定です。次いで、第2回から第5回まではパーソナリティのとらえ方、第6回から第9回までは対人関係のとらえ方、そして第10回から第13回までは発達のとらえ方に焦点を当て、青年期にある皆さんの自己理解・他者理解の実習を交えながら、講義と話し合いを進めていきます。第14回に、ここまでの気づきと学びをまとめて発表し合い、第15回に、あらためて青年期とくに大学生の時期の発達課題を整理し、対処支援の方法を考え合う予定です。																																																			
<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>10月1日</td> <td>青年期とは</td> <td>第8回</td> <td>11月26日</td> <td>対人態度を知る</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>10月8日</td> <td>パーソナリティの心理</td> <td>第9回</td> <td>12月3日</td> <td>振り返りII</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>10月15日</td> <td>パーソナリティをみる</td> <td>第10回</td> <td>12月10日</td> <td>発達の心理</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>10月22日</td> <td>心のなりたち</td> <td>第11回</td> <td>12月17日</td> <td>わたしと家族</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>10月29日</td> <td>振り返りI</td> <td>第12回</td> <td>12月24日</td> <td>わたしの子ども時代</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>11月5日</td> <td>対人関係の心理</td> <td>第13回</td> <td>1月7日</td> <td>振り返りIII (レポート課題の説明)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>11月12日</td> <td>対人関係をふりかえる</td> <td>第14回</td> <td>1月21日</td> <td>気づきと学びのまとめ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>第15回</td> <td>1月28日</td> <td>再び、青年期とは</td> </tr> </table>				第1回	10月1日	青年期とは	第8回	11月26日	対人態度を知る	第2回	10月8日	パーソナリティの心理	第9回	12月3日	振り返りII	第3回	10月15日	パーソナリティをみる	第10回	12月10日	発達の心理	第4回	10月22日	心のなりたち	第11回	12月17日	わたしと家族	第5回	10月29日	振り返りI	第12回	12月24日	わたしの子ども時代	第6回	11月5日	対人関係の心理	第13回	1月7日	振り返りIII (レポート課題の説明)	第7回	11月12日	対人関係をふりかえる	第14回	1月21日	気づきと学びのまとめ				第15回	1月28日	再び、青年期とは
第1回	10月1日	青年期とは	第8回	11月26日	対人態度を知る																																														
第2回	10月8日	パーソナリティの心理	第9回	12月3日	振り返りII																																														
第3回	10月15日	パーソナリティをみる	第10回	12月10日	発達の心理																																														
第4回	10月22日	心のなりたち	第11回	12月17日	わたしと家族																																														
第5回	10月29日	振り返りI	第12回	12月24日	わたしの子ども時代																																														
第6回	11月5日	対人関係の心理	第13回	1月7日	振り返りIII (レポート課題の説明)																																														
第7回	11月12日	対人関係をふりかえる	第14回	1月21日	気づきと学びのまとめ																																														
			第15回	1月28日	再び、青年期とは																																														
キーワード	自己理解、他者理解、思春期、青年期、大学生、発達課題																																																		
教科書・教材・参考書	教科書は、「新自分さがしの心理学—自己理解ワークブック」(川瀬・松本著、ナカニシヤ出版、1997年、1,785円)を使用します。 参考書はつぎの2冊です。 「よくわかる青年心理学」 白井利明著 ミネルヴァ書房 2006年 「ワークショップ大学生生活の心理学」 藤本・東著 ナカニシヤ出版 2009年																																																		
成績評価の方法・基準等	(参加人数と教室によって変更あり) 全回出席、予習/復習課題の提出、および最終レポート提出(2000字程度)を前提にします。(授業への積極的取組み3点・予習課題1点・復習課題1点)×14回+最終レポート30点=100点のうち、60点以上を合格とします。																																																		
受講要件(履修条件)	全回出席が可能なこと。集中して授業に取り組むこと。自分の言動に責任を持てること。																																																		
本科目の位置づけ 学習・教育目標	本学教養教育の一部として、とくに「自主的に考え、発信する能力」および「多様性を認め、相互に啓発し合う態度」の涵養に深く関わる科目です。 全学共有学士像のうち、「自ら学び、考え、主張し、行動変革する素養を有する」に向けて、自己理解と他者理解を深めながら、本来の自由と人間的限界に気づくことを目指します。																																																		
備考(準備学習等)																																																			